へ 5
5619

門へ
號 5619
巻

て久しく孫代繁昌い業
集のわらく天和貞享いとし
集すがらめきたのもや
しきかるさそうしうた
ひめとと人のれ伐武うひし
ぞむらしく年のそ体子

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井上文雄

附言

一此集を猿楽庵家集と題号せしは予が猿舞の記より
[illegible]
一集中より引用せる書々数多記小文庫砥並山有敬海猿
有敬の顔寒子を載せる其余々彩々の句集より引用
一時百家の書々得るまゝ[illegible]
悉くの書に[illegible]
一今世より行る類歌或々五百歌集々古人の句を[illegible]
[illegible]其歌を省き其句[illegible]書を略[illegible]
を考ふるよりあり[illegible]歌[illegible]猿楽庵家集々文[illegible]中より
[illegible]
宗雄をは[illegible]

蕪村暁斎等の編まれし歌仏作者名をもれたるもまた名家のかたがた其大概を挙げし事なり

一事毎四時の発句を机右の物に記録或は書を文房の句或は撰ばれし人物の句を挙げ其事を詳に書へし

一作者の国名を考へ記すべきなれども一句を限りとし同名の作者多く其所を詳に

一請ふ社友近藤氏句の墨書を追悼の為五六年を経て遂に其事を一時の録書古の墨書を社友の名を加へて

のちまた校合を訂正あんと必とも撰者のみ及ばざる句のうち移を免辛ず捉まる所あり

柳廼屋仝齋誌

俳諧續桔尾花集 追善之巻

小蓑庵雄嶺選

柳廼屋風齋

稲廼屋桔十 校合

追悼之發句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風の[illegible]

四七日新菊之物

風の[illegible]

傷亡所[illegible]雪

[illegible]の[illegible]

回遊悼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊百ケ日

・墨の橋書やまものの法もうれ　丈角

生年我菊を夢化の師夢子八能薬の
夢を三十年来八西まいう年生年の上下略

・夢化者なる白ひ紙うてものこ　嚴空

菊追善

・葉の生中坊う成まく果ハ三ッ　立

元孫八乙亥十月十二日一周忌

・夢人の袖を飛めを納空うれ　立

亡師一周忌に手つう国係を手て
梦破を明うて法門の仏物を供ん

・餐の素意云めの時法もうく　許六

三回忌

・老ていて中こうう和法を鑒系う　坊角

蓋法の要品を石一字出写しん喪乃
信ん主業生殺うを捨て兵鑒号
の特殊をこうふのみ

・石法の墨生屋ケ和しうれ　丈芳

亡師三回忌歌

・月雪ままうう乎子うれ　許六

七回忌

・七ッ世と者法中ケ小教時間　坊角

・雪時間をれ山もうや生無尾　嚴空

生年我七回忌追福の時法華経
形写の梦文略

[illegible]

十三回　　丈芝

[illegible]　　甘角

[illegible]　　巖雪

[illegible]　　海道

[illegible]　　嬉湖

[illegible]　　自笑

[illegible]　　泉世

[illegible]　　知足

[illegible]　　史邦

[illegible]　　丘

[illegible]　　丈芝

[illegible]　　甘角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

・[illegible]

[illegible]

・[illegible]

芭蕉翁畫像讃　東花坊

此翁昔在武陵城　野水芭蕉以雨鳴
蘭省得時櫻繫馬　庐山捨世竹棲鸞
歌養西上人墮淚　詩傲杜工部寫情
和漢文章誰可敵　假名不必隅真名

石山幻住庵八十世紀翁の[illegible]
世[illegible]
以つ[illegible]
老師[illegible]
[illegible]　里東
幻住庵[illegible]　史邦
[illegible]
[illegible]　文州
[illegible]
[illegible]　其角
[illegible]
秋[illegible]　[illegible]

昔の庵跡の梅やいかゝ　素堂

伊賀へ越す時去来に芭蕉の墓を侍て

云傳る法通りしの中や墓の苔　文叶

睦月十二日芭蕉忌かな

大元る飛足とゝ成て梅の花　小枝

芭蕉の霊をとゝめて

黒くも一門ゝ中や墓ゝ　去来

三月十二日大徳義仲寺古芭蕉の墓に侍て

陽春や墨よりつきそめ墓ぬり　浪化

除蕉翁忌交吟

信濃路に先ゝ水の音　相葉

うる花ゝ哀のこゝろ中ゝ哀の塚　梅人

序しまの秋くゝ月もまつ時分　舞三

いの社上井ゝ成るまゝ秋ゝ

まつ〻せ〻る月見ぶね

船ゝ出の数まもの中新酒ゝ　酔白

月の名ゝ〻ゝ秋ゝ本ゝ〻ゝ　曙邑

面ゝ月まゝよゝ中ゝ梅ハ実ゝ中ゝ　俳水

ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ侍ゝ松の形　菊水

霧雲の下ゝ〻ゝ力ゝ　宮歸

行事も結ゝる世中ゝ山　梨雨

月ゝ〻ゝ〻ゝ人ゝ〻ゝ仏師　水爾

ゝ〻ゝ人ゝ〻ゝ出ゝ世ゝ中ゝ秋の形　千水

我信濃ハ秋の風ゝ少しは回ゝ

[illegible]

一字を[illegible]

[illegible]

芭蕉翁百年忌

雅の本後志の[illegible]る時句うれ　白雄

自志の中に[illegible]しられる　也翠

芭蕉翁百五十四忌追善句

世を旅[illegible]時句うれ　暉峻

[illegible]る時句の[illegible]　巳[illegible]改　湖鯉

大日枝[illegible]る時句うれ　春甫

祖翁の[illegible]

[illegible]　上元　蓼江

世を[illegible]時句しの[illegible]　[illegible]

雅の本後志[illegible]時句[illegible]　[illegible]

[illegible]時句[illegible]　[illegible]

[illegible]時句[illegible]　[illegible]

[illegible]時句[illegible]　荒水

[illegible]翁の百五十四忌の追福[illegible]

[illegible]拾遺志集を[illegible]

[illegible]人屋[illegible]の[illegible]　河梁

芭蕉翁[illegible]前[illegible]句の[illegible]百五十

四の追[illegible]

[illegible]れ蕉一ツ[illegible]　松年

[illegible]の[illegible]時句[illegible]　[illegible]

[illegible]

雜植の松も時雨よりうり　梅十

閑出月十二日より百五十四日

永載し[illegible]の[illegible]

菊折て対面時[illegible]の[illegible]　志文

時雨[illegible]後の[illegible]の[illegible]　寒井

[illegible]　千春

[illegible]　文南

[illegible]

[illegible]　雜菊改　也蓼

名前略

[illegible]の時雨[illegible]　岐山

[illegible]　芭竹

[illegible]　伯文

[illegible]　民賀

[illegible]　千春

[illegible]　李篠

[illegible]　志芳

[illegible]　圭桂

[illegible]　圭蓬

[illegible]　志紗

[illegible]　桂素

時雨降る中法華の堂に参る所の者

仏の御前に組合したる塚の栗　孫四

源門書写の経冊塚に埋しと

時雨降る頃や昔の新さして　山き吹

栗伊勢廟前　梅笠

雅の墓にもの言ふの時雨かな

今年閏九月十三日小蓑庵の初会

冬籠居を学ぶ雨の音

西行の墓中務の如く一位　伊勢　霍雯

伊勢行基菩提のよう文四郎

後鳥羽院御陵旅塚を

待て来て昔よ時雨不二乃雲　梅室

奈良の日秋篠寺と称せらるの例あるもの

行基菩提寺を寺号し次第

故に称行基塚　寺号を

寺号無しも風雅の例あるもの

寺号なき祖師の一つ五十年の昔

寺号切後の塚を法の墨と迷て俳祖

七庵の塚を法の墨と迷て俳祖

生人の墓を墨と呼ぶ世

墨の日の行基塚　墨の墨集の墨の影の

乃ち墨八寸ばかり墨を限り命を

西の方の時の墨の墨に風雅の墨を

寺号行基の方を墨に人を進て

菓の白きを以て雪景の体を此
白きを白雪と名づけ
菓の色を切籠造りの形
菊形にて作る色合きを其事の如
其を金箔を被せ菓の法
を以て摺て菓の色を
略て云ひ白低き形の平
菓の新しきを神に供の形

以只
下サ菓子
吟松
交伸
押石
夫房
大房
貞忠
和水
貞秀

○

深て考る事を時宜の錯情に
松樹を時に示るしるれ
橘の分を考る松実の時宜の事

東屋
身枝
長寿
仙重

天保十四年癸卯十月十日出来
一百五十四長恵の法図

旅世稼を御しるる時宜の
宝を揚を虚の表物
水芋も体しさこのるる秋菓を
おくを長恵の法
体いのを年を行る月の表
世をふしを上る世をふ菓ナ子
船出の菓物別に松樹を
松の菓菓の掃けを又数

強表
菊家
呼海
地蓼
梅十
兎角
金箔
金柱

[illegible]　文政
[illegible]　岐山
[illegible]　蒙莊
[illegible]　櫻山
[illegible]　伯文
[illegible]　子喜
[illegible]　霧楷
[illegible]　鬼柳
[illegible]　惟孝
[illegible]　秋美
[illegible]　子東
[illegible]　文車

[illegible]　霧井
[illegible]　河保
[illegible]　巨蒙
[illegible]　芳園
[illegible]　乙人
[illegible]　孤田
[illegible]　風高
[illegible]　小恵
[illegible]　孝紀
[illegible]　秋甫
[illegible]　九十岐
[illegible]　孤星

[illegible]

雞の[illegible]

[illegible]杖の[illegible]

[illegible]月

桂素

秋桂

[illegible]

[illegible]破釜の[illegible]

[illegible]の業ひよ生涯を[illegible]

[illegible]

[illegible]露[illegible]和尚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 墨 孫 茅

盆画の分ゑ 兎

日短き上世の徒乃又ちく 孫

嫁の数寡き樹ちる屋ちる 茅

在ちる舎辺の多き第面 兎

金を清りれ於花れ賓 孫

一降ゑ[illegible]の[illegible]ゑ小田の色 茅

自八屋上ゑ根葉ちり 兎

雪紹の作花ゑ おく色 孫

芽ゑ[illegible]ゑ畑等移ちる 茅

濃井ゑ[illegible]せ[illegible]ゑ[illegible]ゑ 兎

状の返ちゑ[illegible]ちる 孫

亭舎の出来ゑ[illegible]ゑ上法舟 茅

雪ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ 兎

[illegible]自ゑ花作松[illegible]ちる 孫

義の名ゑ[illegible]第ちる 茅

出ちる[illegible]ゑ行ちる[illegible]ゑ 兎

枯ちる小等の前ちる[illegible]ちる 孫

不易八天地の自然ちる[illegible]八天地の 茅

変化ちる[illegible]ゑ不易ちる[illegible]ちる 兎

[illegible]ちる[illegible]ちる 孫

今日ちる[illegible]ゑ枯茅 孫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

種物をまきてあるは一ツ千年を経
たること帝の門なる柳の若
なる醫業を[illegible]
屋くに私家に[illegible]の燒[illegible]の
秋風の吹くに仕舞具を[illegible]
庭を掃きて[illegible]
此角の[illegible]
吹きて[illegible]
八幡のあたりの畑
さて[illegible]
住濃[illegible]
人の力をこの[illegible]

歌
家
歌
家
歌
家
歌
家
歌
家
歌

住吉ひと新きこの日傳舟
初吉八仁兵衛[illegible]
[illegible]
又[illegible]
[illegible]
籠の[illegible]
[illegible]の月[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

樂浦のうちなる百姓しらく　兄
家主に陳本のくに節季　嵩
先ひ物をのうち又男ひは考　兄
仮家の主愛八郎小兵衛の生　嵩
時宜くなるの本降まるる　兄
凱陣の儀さ移ひのさまなる　嵩
人まれ新なうるこ考　兄
四五俵の俵季あるを自兄色　嵩
出以嘲まに下沿のまる　兄
町傳まを定めるる意帳　嵩
屋根ふくまなるこ仮宅　兄
出市ちか者考加りまり　嵩

季季の内まる事ない米　兄
角宿に参伊佐を達る面上り　嵩
まに物まを考まるる　兄
時をまの人まる　嵩
以まなる日の永以三月　兄

紅梅

家物やたまを達し人の庭　猛嵩
雲雲消る新乃月新　里門
伊時も考五男の釣達家　嵩
高野さ月年庭る一里　門
董さくはまなる節々宅　嵩

[illegible] 川
出雲の[illegible]重の[illegible]寒[illegible] 嵐
[illegible]の[illegible]の[illegible]人[illegible] 川
[illegible]人の[illegible] 嵐
[illegible] 川
[illegible]の[illegible]の[illegible] 嵐
[illegible]の[illegible] 川
[illegible]の[illegible]の[illegible]月出て 嵐
[illegible]の[illegible]の[illegible] 川

冬之部

十月

十月の[illegible] 鬼貫
十月の[illegible] 白雄
十月や[illegible]の[illegible] 其角
十月や[illegible] 雲屋
十月八[illegible] 成美
[illegible] 信徳

小春

初冬

初冬の日よりまだ寒つのらず
さつまの国は霜なき地
初冬や四方の所望結び留り　上毛　鈴木
初冬や結ぶ霜とも成んつゆ　文路
冬ざれや小雨降る中の蓮留　蓼村
冬ざれや日さし消つる山の角　太祇

冬世俗箱の行脚の城の数なるけり　鬼貫

歩行物と知るべき冬の一神送り
冬ごもり城に旅寝の神送り　嘉陵
所ごとに冬籠り山の神の留　言長
孫の先立しを知らぬ神の留　雀躍
所ごとに冬籠りする神の留　秋文　木蓼

お留主居の中垂れ籠りの神送り　其角
初冬も枯れ残る中神送り　也有
村々に藁屋の雪の小春哉　涼袋
海に寄る一日先きの小春かな　曉臺
冬ごもり結ぶの数の小春哉　一紅
冬ごもり城の結構の小春哉　獲物
冬ごもり城の結構の小春哉　全　勝雨
冬ごもり城の結構の小春哉　上毛　里川
神留を掃除の小春哉　伊賀　芳雲
冬ごもり城の結構の小春哉　伊予　文路
初冬や花咲かぬ小春哉　上毛　乙人
冬ごもり城の結構の小春哉　上毛　知水
初冬や花咲かぬ小春哉　伊勢　縣山

秋近　吹風もちのうの命や秋　風江戸　時雨

移ハ山の門の宮こそ秋　遠ノ名　士明

姫海に菊活吹うひ　小城　有太

遠ノ忘　重厚

遠ノ忘ハ世ハ移ひ　木曽美　保吉

法命講　法命講ハ天宮の事　新江戸　狂六

一夫四海皆兄弟

法命講の妙法

十夜　成美

橘美家も十数の門うれ　白雄

月も見ぬ十数年の結宿中　三千麦

母ぬく国姫書ハれ迷ハ十数年　京池

ゆるさぬ宮ぬ十数年　江戸　等志

帯ノ下ハ人ハ十数年　風高

法ハ迷ハ宮ぬ　二柳　庵ぬ

時雨会　義笠　法衣雑ノ　時雨ハ　善村

ぬ日ハ袖ぬ濡ハ　時雨ぬ　也有

袖ハ日ハ十数年の志を　時雨ぬ

時雨ハ庵ハ　故庵庵時雨ハ　等桃　夫人　也蓼

吹浦ハ　時雨ハ　出翠

舞楽ぬ日ハ　世ハ移ハ時雨の　案文

世ハ移ハ時雨の　士朗

賽銭ハ数ぬ　風高

芭蕉忌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義経記に旅人きたりし大松川　甘堂

前の道なり

初時雨

末月八月雲降りくれて　千里
いつも見る山の姿うつして　地蔵
雲もなき空の時雨　名節
稲刈りて峰の初時雨　素庵
降にけり小松ぬらして初時雨　蓼宇
初時雨清水に禁の小雨かな　茶居
神垣にしくれもやあり初時雨　鬼成
木の葉より星ふる陰や初時雨　岩茶
象潟や雨に合羽て初時雨上サ　梅園
恵まれぬ蓼くらうして時雨　貞明

時雨

雀さへ降れば隠しまつの時雨　縣山
知られぬ陰しまつの時雨　文蔵
初時雨ぬれる空の名ぞ変し　茅窓
雲人もさしてうつしてうつして一時雨　宗因
いさのひよ松ぬき市は時雨　正秀
前に降りて雨
時雨くよ猛うて雲人茅の尾　峯白
茅時雨こうしてひりて行く猫　宿子
猫人てくる　文鱗
前の係数枝画のきてくる
ちの雨前毛よ上井は時雨てきて
ちの刷毛よ上井は時雨てきて　朱笑

菊の白はきくうり白き時の小　乙二
西てこ教ふ考ふ八甲船入るき時の代　原胡
沙先の時の代て来るや考こうて　江戸　仁金
晴るる飛波時の代て来るもうえよ花　立　桂家
波苔を流るり灯のれて小時の　西雲
ケ晴てこ移又晴しうえ色こうの　里川
考うぬ世をうこうり合教の時の代　江戸　李景
時の代て晴も晴もおなし様の書　立　小年
移人のこうる教数るしうれる　呼風
仮考も時の代て考突は夕のれ　江戸　蕉洲
時の代てまタ日は来る山四こうる　立　紫麦
船の考ま時の代も侍ふ埼ふ様　書林　太詮

侍の白のりて時の代て侍うくうれ　北楊
外ま本は侍うま時の代て折この　名夜
保川の友考つうき時の代こうの　芭竹
木こうて考の白て時の代こうれ　江戸　梅笠
船志て侍て侍止む時の代て　武州　鬼雄
月こうと男ふ教も侍る時の代うれ　上サ　一汀
松風の時の代て八ふる答屋の様　京松　素樹
山風を考すてこる時の代うれ　也蕉
時の代て晴てふ考こ不二の山　庵理　秋桂
雲ま山を望て八侍時の代の様　民突
晴てこうこ仲は時の代て侍うれ　梅十
旅人の猿蓑鳥考こうこ教て　松年

後ハ晴て陰る時間 江戸 胡鶴
冥の所のひかりとなりて時間降 全 月交
降くるまるくる間を時間うれ 上毛 横岱
ものを蒙る風のこゝろる時間 全 西遊
時間ゆゝ仏ゆ結菊の咲蕚うれ 全 柳川
紫火樓えれくゝ虎ハ大鳥 大鳥
時間ゆゝ宮も鳥ハおゆ来ハ 言松 鬼柳
見ゆ変ひゆゝ山ゆき時間うれ 江戸 書遊
勢田の稽城せハ又ひゆ時間うゆ 好雅
ものゆ月の押ハ成さゆ時間ハ 貫言
時雀仏変の時間又虜て陳 飯爺
森時分ゆ降出ハ時間ハ 江戸 仏梁

時間ゆゝ火松の出ハ出ゆゝ蕚 乙良
所所ハ日ゆ押ハのゆゝ時間うれ 玉暁
十松経時間て為ゆき時間うゆ 牡鶯
夢ゆ仏ゆゝ云ひ仏ゆゝ笠時間 桂素
一時間ゆて時間ハ松ゆうれ 深田
以為ゆき為木ハ蕚ゆて夕時間 梅宝
松為ゆ蕚子の虞ハ夕時間 江戸 夢中
深川ハ月の時間ゆゝ松陽うれ 松屋
時間ゆゆ為ゆゝ為陽うれ 書富
小松ゆゝうれ傳ゆゝ生ひる年の音 嵐蘭
板碑ゆゝゆハ蕚為る小松ゆうれ 史邦
時間ゆゆゝ又ゆつ仏ハ只蕚ゆ 北枝

夕時間
月時間
小夜霰
松風霰

冬雨　貝石
　　瓦雨
　　吉野
　　宮田
　　北枝

霜　如行
　　利牛
　　相寛
　　仙化

自撰

霜一日毎に白くなれるの古茄子　吏登
　　吉野
　　立
月の梅の舟嗅ふ霜の赤ひ　大梅
月やうの帰り遅く格の霜　弧星
旅人のふるさと江戸の霜の中　頑高
霜や美濃の味出ハ稚もしる　雅周
霜月のかりかり庵の夫　松久
　　吉野
　　立
霜室
　　菜花
霜芽

初氷

氷

冥冥兆二十余年の四交の一時の他とも
なりて書き抜きたる古画の雅名者
全部一作のうつりと共に略方なり

行こともの絵にて雪の子　成美
我こもを見るなのうるの雪の雪　雅啄
冥冥裁こ人こ来に見るの雪の雪　当一
暖のれきの穴こ氷　古人雨石
初雪のたこひに見よや薄氷　風富
冬の水は我こ来るる氷のれ　京鑑
俳諧の間ハこつまねこ雪の子　京宝
ひこ雪ぬ風も見えこ氷　雅弁
隠くと水雪のこ来るこれ　二枚
枯柳ぬ氷こ雪や秋の波　松氷

氷柱

凍

昨星や昨日の定のうけ氷家　子来
氷こ巣の雪こ来ぬ雪の子　義孝
帰雲こ形の氷こ柱層　風富
つ冥こ冬雪こ氷柱のれ　要風
同一雪に雪こ氷柱これ　此角
子雪の巣こ来ぬ氷柱これ　柱十
雪つまこ雪つまこ氷柱こ風　秋蓮
雪こ死ぬれこ雪ぬ雪の柱　京雅
雪こ雪こ昨日雪の柱　乙二
雪の柱雪こ氷柱の雪
雪こ氷雪の知雪雪こ雪

初雪

雪こ雪雪こ雪こ山こ焼　巨雪　雪柱

雪

[illegible]

初雪や[illegible]人を呼[illegible]立　碧梧桐

初雪や[illegible]の[illegible]を待　也摩

[illegible]

[illegible]日[illegible]の雪　秦吟

[illegible]

画讃

[illegible]雪を[illegible]限　素堂

雪に[illegible]代遠き[illegible]山[illegible]　宝因

[illegible]雪や[illegible]　支考

雪[illegible]や[illegible]人[illegible]の[illegible]雪や[illegible]の人　等雪

[illegible]捨て[illegible]の[illegible]雪や[illegible]の人　蕉村

蕉の[illegible]雪を[illegible]義仲の[illegible]

[illegible]雪に[illegible]　也有

[illegible]雪[illegible]　大江丸

[illegible]雪[illegible]　万和

[illegible]雪[illegible]　秋瓜

霰

霰見

映雪

雪園

地兎の字を形よく雪の字の如く
雪と作る雪の降るなり　乙二
菊州にて雪しまる雪の降るなり　地蕊
霜のきん振を作せよ　笠の雪　上毛　一具
霜の形を出す　蓑の雪　江戸　飯能
蓑一つゆるる雪の尾　仙遠
雪屋の背中に降る雪　上毛　小雄
一つの籠雪　上毛　西之
吐のように降る雪　上毛　李嶽
押のように雪　雪山　鷹丸
引搔に雪の雪　雪　也有
引搔に雪の雪　雪　石雄

降出んとひ降ぬ霰の雪　呼物
霜のなき雪の霰　江戸　斗米
陵や雪三十日ぬ雪の見えぬ程　上毛　香山
乙巳東行雪ぬ雪
ひとしきり見まり旅を不戸雪　智月
いるくと和る雪見の邪　蒔言
行程ハ行て雪見の礼　上毛　雪石
海山の雪の帰る雪の礼　杉風
霜の世を力投出て映雪の邪　石雄
雪降山中
人ひとと雪の茶作る雪ひの礼　焼臺
雪園ひとと雪降来行き見て　上毛　風石

雲車

霰

霙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

巨燵

燵用や旅しさ人を寒てさ寒やた　佐賀生仁左　湖雲
ゆくゝに古燵の用て寒きこの頃　茶山
ゝ世々を見るこの寒このる古燵下　春因

火鉢

吹霜にけしやそ八山やおの山暁の
落葉を焚ものと思ひ出て
山や出の山寒の桜の年は垂巨燵　文孝
難波の岭

炭俵つゝ手の情明て巨燵の孔　千代尼
翠こゝ明に用ひ乗るこゝ明なる　佐賀　眠長
ゝ先のゝ移麗ゝ恋るこゝの孔　菊荘
画廊にゝこゝ火鉢い重ゝこゝ　三子春
文鎮ゝ古て俗ゝ古ゝ燵ゝ　乙良

火鉢

元旦ゝ言ひに逝ひゝ鉢の弟ゝ言ひゝ
埋火の南ゝ俗やゝゝ　甘南
埋火や つひゝ大農ゆる稲のゝ　蓼村
ゝ世ゝ新や埋ゝゝ世ゝ　古雄
我森見ゝ仏ゝ火を埋ゝ　古絮
埋ゝ宋に仏名書ゝ　三子春
ゝゝ舌ゝ火鉢も教の仏　秋尼
若ゝ火鉢押金ゝ四分六分　梅室
徒花つゝ　暁臺
埋ゝ義経屋ゝ　栄北
人の寿ゝ棟家ゝ埋火北　九十枝
炭付ゝ炭ゝ行ゝ鉢の郷　梅室

埋火

炭

[illegible]

寒馬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蒲團

夫角
丘
蕎村
貞徳
牧水

去来
乙由
蕎村
一蕉
蕎凱

人皆よ新るハ新て来ることり
猶しきハ初め終りよ来給
必生樊て蕎仏も一日来給
日の来きやうよ男女や来給
物のよ人仏の生きうり来給
新よ仏て貴来ることり
今の人人の嘲や来ることり
蕉の墨生犯猶垂牛来猶
就人ハうて古猶うり来猶
来のまく嘲の嘲の帰生のう
蕉古人ハ来を送る

佐州

広人
成出
粉也
水方
陳史
蕉窓
俳書
貴角
焼壷
三宝寺

風

風の吟月しろ生のこうれ

風重

芭蕉翁の会稽蓬萊の作画に似たりとて
門弟なる夢見てその義の侘を画て
僕のもとへ送れり

風の音ハ松に残りて夢冷し　丈芝

水うつしめを敲ハ地を帰る孔　盛貞

風の吹ハやを面白き地をたゝる　信海　露眠

ふるゝしや松ふるゆゑ行くる　信海　梅芝

水枯るを水に降りて松を面　精海　松宗

行くゝふを敲ハ雨の音きゝ作　羅漢

宝井是ハ嵐に水を宝井　文芳

大空の素気しるひるを物干す

ぬきゝんを

西吉はけり俳句ふまぬきゝ作　芳峻

生駒ようゝ付ふきゝ孔　紫雨

我庵を首に付けて雲作　朱山

ふる時のふくしるきゝ作　冬芳

芝山ふるゝ雲ふ雲ふ森　江戸　清國

雪に極て雲るきゝふきゝの作　茶静

芝の茅やしる孔水を雲の音所　猫海　守之

雲のふるに行ふを孔　上海　雄崖

雲ふふるゝ月ふるふ音入る雲の孔　江戸　静雨

雲きゝふふ自由の水きゝ山茶作　上海　魚魯

祇園の水ふる岩ふ雲の作　下総　以見

雲ふる水ふふへて雲きゝ孔　上総　宜時

変て花むしふるきゝ雲の雲きゝ孔　宋伝　松玄

冬月

[illegible] 菜靜
月も水も星も[illegible] 江戸 雪石
雪の松も[illegible] 仝 蔡秋
[illegible] 菊靜
初雪の[illegible] 徳嶽
[illegible] 文子
不二に登る雪さく日 江戸 蕉水
[illegible] 石路
[illegible] 江戸 曲江
二日の[illegible] 菊嶽
雪の月[illegible] 風富
[illegible] 徳嶽

雪歌
雪の歌や[illegible]
雪の[illegible]
雪日
雪壁に[illegible]
[illegible]の[illegible]
雪の[illegible]
[illegible]の[illegible]
雪の[illegible]
雪宮
[illegible]の星[illegible]
雪枯
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible] 扶角
[illegible] 玉雄
[illegible] 士朔
[illegible] 佑徳
[illegible] 青竹
[illegible] 樗堂
[illegible] 月亭
[illegible] 古翠
[illegible] 緑田
[illegible] 去来
[illegible] 扶角

月一ツ枯れてくるる世界哉　一具

秀枯や住吉の岸の家　山甫

せきもりの人を見る秋の田面　保吉

小男鹿の逃げ行方や秋の田　蓍之

見る眼さへ面うつる秋の田　梅十

秋川や筏の先の見るまの　其角

秋川や蕎麦の花うつる鴨の羽　曉臺

橋の上のしのぶの草の秋の川　五明

あられはね音たてて秋の川　九十郎

秋水之心うめしや山のうら住居　才麿

寒庵も有るべき本の梢かな　春川

秋田

秋川

秋水之

義経

遠き島の面影　也有

思ひ出も有るべきかの秋の月

老の身も有るべきかの秋の月　之樹

嚢中略有七千首

不負百年風月身

我世とともに銭多の義経の墓　牧童

古き世の蕭条百年義経の墓　夢村

義経の墓にそなへる板こうの花　成美

七重八重の義経の墓に板又　可堅

舟越して安行宮に義経の墓　青庵

義経の墓にまゐりて朝作り以古伝

昔古の義経の墓に文源

正直なる者の葉を葉の表裏に江戸菊屋
吹上の門前なる菊屋長兵衛製造而后
浦の素
葉は長く本の方へ曲り山路下 御富
家紋十三四長
本葉数 地獄へ入る義は本の葉は下の方
自然の形へ入る本の葉下 宗盤
侍の方へ向る左庵の庵は本の葉 寄窓
なるも形長く白なり
葉は本の葉は下の庵へ入る 白宝
出たるは自然と枯あり
角田川本の葉は長く家は今 朱笑

掃き集て置てもこうや 数本の葉 武州 玉井
生色なる様に成て数本の葉下 貝石
長和なる四の花なるやちる紅葉 琴古
紅葉数 時雨なる花なるやちる紅葉 櫻良
散る紅葉山水もきよめ新うれ 数久岩
枯野 風吹て日暮れ戻るうれ葉うれ 仟亡
夜情
我為なる者なる者なるやうれ 琴内
なる時なる者なるの時なるの嵐なるの 曲翠
小男鹿のうき鳴なる枯野なる 土芳
寄歩なる者なるうれのうれ 帝因
水鳥なるしのやうれのう 休畑 風也

山茶の紫うすく廣きうれの花　陰雲
國のたのうつのうつ　枯葉
茶の花　枯葉
よもぎ家の花ひてうつ　雲妙　難仙
矣一品　難山
風さのうつ　羽妙　東集
昌元の田畑　小楊
うつ枯風の茶花　茶窓
ちきこうて　桜もさ　柳
柳うつ人　枯葉
枯てきこ　柳
茶枯　鬼柳
書堂

茶の花よりたこんりのこの麻栗　白雄
おてもてもけ寿八特ぬ茶の花　二十寿
おもしもかもこ茶の花　皮山
一里八町茶の花　枯千
茶の花八重つ仏のあき倉　子春
茶の花や仏さ　鬼柳
茶の花や畑の手貢を初穂　千寿井
茶の花や旅の西　里の畑　長東
茶の花行きたこつ　麦　麦桂
山茶花　言水
山茶花　鈴農
山茶花の家へこ　枯千

山茶花　也雪
[illegible]八の出[illegible]ハ八つ[illegible]年　名雄
[illegible]花を[illegible]ハ[illegible]枇杷の花　仏仙
[illegible]　五明

水仙　水仙平[illegible]の家[illegible]ハ冬の事　上毛八釜人
水仙平[illegible]　江戸　麦安
水仙平[illegible]水の言　雑国
水仙の[illegible]ハ[illegible]　由誉
水仙平[illegible]　江戸　寺翠
水仙の[illegible]　上毛　三岳
水仙平[illegible]　[illegible]高
[illegible]　保吉

石蕗花　[illegible]ハ石蕗の花　士朝
[illegible]　[illegible]深
[illegible]　[illegible]高
[illegible]　[illegible]二
[illegible]　[illegible]朝
[illegible]　[illegible]人
[illegible]　伯古　[illegible]
[illegible]　江戸　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

冬

冬牡丹　[illegible]
[illegible]牡丹[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

冬菊　冬菊ハ遅[illegible]る[illegible]ぬ　[illegible]
[illegible]菊ハ遅[illegible]る[illegible]花[illegible]　[illegible]

宮きくやはるの霜枯し後　情夢
宮菊や郭をとこの帰　永雄
宮菊や人の来ぬ日も雪の時　江戸　桑雄

枯菊

菊枯て明もく庶人の庫うれ　不卜
菊枯て鹿ハふ筋の角新市　白国
きく畑や枯れ行うち風枯吹　江戸　湖雪
米うらうかてうらうに低しつの角　仝　桂秋
うれ菊や枯て静なる日ばつうく　信州　一山
笠寺や二百九拾日に菊枯うて　寺一

蕉翁の古く咲る鉢の枯市生ぬ
萩うかな清奥社枯市新宿　霞蓬

枯萩

枯萩ハ春ハ芽ハ吹ハ傍よ角の面　出翠
風枯を焼枯ハつくや萩ううく　信州　白雄
豪を枯てやうる程宗し　枯萩　杉風
うれ萩月の秋宮枯吹うれ　出翠
萩ハ枯て夜ハ明ハ枯萩　祖山
枯ぬて夜ハうう枯ぬきうれ　信州　雅風

凡菴の伊丹ハ死ぬ日ハ枯ぬ
告ぬうう風雅ハうう人の名誉
死ぬんの花天命也とうの古のこと
やうれぬうう枯ぬ顧ぬう

枯尾花

枯笠ハつのやうう　枯尾花　成美
中くハ枯つうく寺ぬ　枯尾花　暁臺
宗刈の鬢ハさいる　枯尾花　蕎村

陸や水の中よりそこの枯蘆も
枯蘆も蘆の葉の靜く
蘆も枯てこゝろ淋る秋の夜
此日月一條の枯蘆も
きまく枯俤ともぬる枯蘆も
美しく人心かゝるれ枯蘆の
海山の風を枯行蘆もうれ
枯笛のうら風の書もる蘆も
枯蘆も眠ハ蘆の寂り寄り
面風の秋蘆枯こゝろ枯蘆
傳山ゆ行て枯て蘆も
風の蘆もこゝろ吹ものり枯蘆も

鐵蘆
松兄
士朔
垂鈴
月石
三子蘆
卓池
遊城
垂岡
也蘆
子蘆
李葉

風の蘆蘆も枯よりこゝろ枯よりこゝろ
手もつの蘆蘆も枯こゝろ山の秋
枯し後の風ハ山ことこゝろ蘆も吹
水行れの秋の山のこゝろ枯蘆も江戸士口
蘆枯ハ山枯こゝろ枯て秋こゝろ
立こゝろ蘆こゝろ面淋中秋ハ
蘆のこゝろ人目山ゆ枯れよりこゝろ
枯蘆や蟹ハ吹風こゝろ面この北
蘆枯て見鐵蘆の家の小家ハ
刈根へこゝや風こゝろ傳て蘆枯る
人目こゝろ淋こゝろ枯こゝろ蘆の
枯てこゝろ蘆枯こゝろ人こゝろ

雪蘆
菊莊
枯十
士口
寒文
見外
岐山
古翠
志丈
完明
堂石
以兄

世の州の杜子美小杜子美のため
庵の蘇氏程の杜子美
芋は小杜子美物をしみの子
子の庵や行をたゝ発句の子
矢を負ふて三ツ子の州
子葉して世を出けるの縣れ
甘き香の味子面也翁千葉
子葉木の自然の翁千葉
為人生を公ハを伝行る守
形政の忘はゆるゝ伝あるる
梳して森ぬ人なる舞行る
紅葉しる人の孫子あるる

蘇橋
子芋
葉家
雄家
風富
小雄
芋時
雄家
文考
也有
李素
雄家

千葉

纲代守

子香

うゝ庵のうゝ子香

大江川

日の芋てい多く筏子香帰

陸羽十四志

うゝ庭のうゝ

時うゝ秋也子香

風ゝ也秋子香

以の都てゝ子香

ゝうゝ庭子香

時ゝうゝ芋ゝ子香

望日八毎の芋ゝ子香

像子妙第子合の伝時ゝ子香芋

筆下

正秀

也子

柳秋

升山

芋山

芋家

子逸秀

芋静

柳秋

小松谷　菊莊
彩香　泥足
鮫鯊　杉葉
鴨　丹後
未能
後時
乙良
行梁
守彦
右知
梁鮫
乙二

新鴨の香　京　羽州
水香　古琴
水香の前の後の　梅邑
水香の前の後の　長琴
水香の前の後の　民賀
水香の前の後の　梅十
水香の前の後の　葉琴
水香の前の後の　九十鼓
水香の前の後の　洋六

[illegible]

雲月

冬玉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大師像　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

重箱

縄八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

英行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

季載　[illegible]　丹南　杉風

[illegible]　杉風

[illegible]　三千貫

[illegible]　金合

[illegible]　也芭

季信　[illegible]　古人　也蕉

[illegible]　我　命

年信　[illegible]　隆国

[illegible]　俳空

年の冥　[illegible]　朱芝

[illegible]　黄彩

[illegible]　風高

年の坂　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　小陸

[illegible]　春秋

行年　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]

俳諧續猿蓑

小蓑庵雄嶺選

柳枝屋風齋
稲の屋牡十　校合

春之部

歌旦　去年の春ちらせし芽枝　元廣

四度まで

春雨の朱をさしそめし人　杉風

月出の山の手入餅ちら　峯白

うぐひすの日は法華の芽枝　而后

元日

元日や玉ぼうきの新しき　去来
元日八ぼうきもしらぬ雪ふれり　一笑
元日も新のしるしの友まゆ　史富
元日や松大の二日碎　孟喬

剃髪云々
ホの角先元日生涯の
花を新の松と云

元日や高砂の曲しらぬ新　一学
元日や直なる文ふみ　業穎
元日や書く学びてはじめは　連志
元日は義を言のべられ　古郷
元新や仏のみまを遂さま　路通
人を表ゆるしるはる市物　書賀

立春

春立ちぬ星は中くのこり松の色　鬼貫
仏のみ寿をまつるこの春　士朗
春立ぬ除八十の松乃ゝ　秀雨
春立ぬ小さき園梨子　金池
春立ぬ裏の山ぶし柳一木　伝脇　易足
春立て柳の糸のうつり　江戸　李葉
春立と思へば雀の巣立　五衆
春立ぬ我住ふ水八十三乃ゝ　望一
我住ふ水八十三乃ゝ　大江丸
春の月梅と桜ゝ　江戸　董郷
ゆく水はうつるゝ春の春　江戸　烏谷
春深しうつるゝ新の春　呼風

[illegible]　江戸　手毒
[illegible]　梅宮
[illegible]　陸奥
[illegible]　甘泉
[illegible]　仏光　岳陽
[illegible]　灰徒
[illegible]　龍雲

清代の毒
[illegible]　二子毒
[illegible]　西月
[illegible]　下毛　三秀
[illegible]　イセ　湛石

春

宿の毒　法孔雀　[illegible]　鉢命
小蕪尾元旦　[illegible]　梅月宿の毒
秋父根る松乃[illegible]　[illegible]　[illegible]　

[illegible]　文路
初時や[illegible]窓梁　俳
[illegible]　[illegible]

[illegible]の梅よりまをまを
[illegible]初りて白し

初日

日は[illegible]初りて大きくなる　仁戸　出翠
[illegible]　呂雲
[illegible]の光りや初日さす　下サ　一照
[illegible]梅や安房の地を初りけり
[illegible]の水も[illegible]の内　乙良
[illegible]水や[illegible]の[illegible]　杜鵑
[illegible]に先[illegible]　[illegible]
[illegible]水を[illegible]　[illegible]
[illegible]や[illegible]矣[illegible]の山　鬼燕

門松

松風の里行変[illegible]門[illegible]
門松は別[illegible]　[illegible]
門松は[illegible]　[illegible]
[illegible]の松や[illegible]
[illegible]代の表[illegible]門の松
門松[illegible]梅[illegible]
[illegible]初老の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]初
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人掬八重垣なすらん　住吉　聖石

年玉　ふんたの事五字　許六

ゆゝしき玉や置おきよ出る色葉を　乙良

年玉や寒ぬ人はさもあらん　梅十

蓬莱　蓬莱の松よ高く春の松　其角

わらんらんよ志ちく命ゝ松ゝ　蓬仇

蓬莱や子のつまる盃殿樹子　大梅

ほうらんや高きくきの上　葉静

梅餅　蓬莱や畳のくへ乃寄き　住吉　学宝

ほうらんや紙に書き　乙良

ほうらんや門のうれ　交路

わらうらうや畳のくへ乃の春　仁戸　梅甫

筆始　月おいてうの奥よ筆をしめ　也蓬

書初よ神海上て垂山家ゝ　風高

よろこ出や庭社日紀生筆初め　雅楽

書方　書庫を書方よ梅しゝ山家れ　大梅

地主社の向をよ吉ゝ方ゝう　岐山

書筆　畳まゝ内ゝ余り中寒方　梅十

吉ゝ筆ゝ向ゝ空つ空内よ吉ゝ　三方八　蓬宇

吉ゝ仕ゝよ田中の師おゝ山ゝ　呼風

吉ゝ筆の梅ゝて吉き山家れ　梅十

吉ゝ仕ゝや水川よ吹吉の風　交路

屠蘇　屠蘇吉ゝ春よゝ家ゝ山　漫々

屠蘇ゝて春て吉ゝおゝ生長吉ゝ　牡蠣

[illegible]者　歩行ねハ来て吹風も[illegible]者　岐山
[illegible]　[illegible]者　鶏月
[illegible]　[illegible]者　壺磨
町嶂[illegible]　[illegible]者　江戸　松什
四一枚[illegible]　[illegible]者　風富
[illegible]　[illegible]　庭尼
[illegible]　[illegible]　西整
宝船
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

自出たるたるいとなる夷　江戸　雲雀
願の藤の藤なりけり　傀儡師　笠者
人の世の夷もくるるの名の内　大根
一度ふるる世を思ひ　傀儡師　西瓜
うつり替る世を思ひ　傀儡師　恵方
まつまつ春の来る　傀儡師　牧牛
子供のいとつ無　傀儡師　菊常
宝船のを後ましく　蘭開　兎角
福寿草　蘭開　西瓜
福寿草　蘭開　松竹
七種　七種の中に　一種　北枝
七種やいはれの聲　北枝　丈角

春

七草粥の合を　伝麻　智月
七草や七つ揃ひて笑ふ　素堂
新やりて笑ふ　長夢
緑の雲雀　雲雀
雲雀の巣人まよ　八朗
初若菜之筋四筋　江戸　風雄
眼もとの春　梅宝
味噌新屋の匂ひ　夕可
丘芹の春の雨　去来

聖代

笑ふの仁も世の春　宗春
一番に春の世も根芹　夷水　江之

蓬

仏の座

杉の円

三毬打

蓬

彼岸

遠羽子

手鞠つく

春

八

福引　福引や清水たんてい御る雲　雪朝
福引や原ふるまつ男は新屋形　上毛　西日
隅牧　いのゆ牧や出合のうら結人こうこ　白光
かも牧こ有くこ痕しかる庭朱小　逸岡
睦月初や結ま婦しきこひを
人くま笑ま形
初子日　惜ふをんまや初子の小玉　巣雲
雪の裏義こ仕りまのかうれ　乙二
高宰府ま結ま眺雪
みめのとこ牧の下掃　男しの雪　呼風
小牧曳　おあくと義くのふる中小牧引　秋水
母こ出こ惜ま立ふふまつ引　江戸　史千

春

仲くまはこ立ふまや小牧引　寒梅
牧の中宰ま立ふふ牧引　台東
ふきくのふ古ふ牧引　石鎚山　傾西
惜ふまふ所ふ牧引
惜ふまふ中ふ牧引　雲月
惜ふまふ中ふ出のの古工解こ寿る　岐山
鈴丈の寿ま雪ま春初　九月岐
西ひめく人の業ま春初　井筒
賣雪ふふまこ人ふ　飛雲
つまの引結加勢中信ま立縁く　逸岡
結ま引中ふ結ま形こ口巻く　江戸　流美
正月　正月小聲ふふこ無の巻ひうれ　烟笠

正月や青海の波かすつき　鼎左
正月や門々たのしく凧の糸　乙樹
睦月　睦月なのいつの初午の市　貞徳
梅ばかりそらにかをる月の雲　武州　芦国
雲ゑて日はさすとても春の月　作州　叢
小正月　梅のちる外の空さへ小正月　江戸　重遠
餅搗　餅搗の杵の音聞く小正月　春来
餅つくや臼の底つきぬけぬ　岩堂
餅つくや世老いぬれば歯も付　大梅
餅つくや数ならぬ身の数ならぬ　貝石
臼ちいさ夢ゆめ見ぬ　千遠
ちりぬるのよ遠寒夜　亮州

初霞　作州　霞ゆ遠　蕾古
若緑　若草や霞のうしろ初霞　春房
若草や霞の松のそらもなし　鬼貴
そらもなし松の霞の明るよ　土芳
霞ゆ遠　季春
篠春雨　おのつから伊山の春や篠春雨　雅俊
篠春雨　指て春るそらの雨や篠春雨　西鶴
冴の入る　月の冴にかつて春や冴の入る　江戸　冬葉
　　古翠

春の雪　　茅静

雪の雲　　洋六

梅上の鶯　　北翼

残雪　　青庵

雪間　　芳雀

雪解　　頑布

元禄丙子冬睦月まつ方出雲を出て伯耆の国へ越る道の程のつれづれ雪の降りしきるさまなどいとゝ物のあはれ

笠ぬきもとつ松の雪ふかし　　甚角

掃捨てゝ雪さく庵の雪ばかり　　九十郎

御出ゆるゆる雪の降るの形　　北翼

上段は雪の降りて雪の川　　未木

雪の雲　　洋六

山川や雪の中なる山の家　　北翼

雪降りて雪の中なる山の家　　青庵

夕雪風や雪の中なる山の家　　芳雀

初雪風や雪の中なる山の家　　頑布

新雪風や雪の中なる山の家　　北翼

新雪風や雪の中なる山の家　　文路

鶯鳴く雪の中なる山の家　　由聖

御出ゆるゆるとうんうんなる　　未芝

御出ゆるゆるとうんうんなる

御出ゆるゆるとうんうんなる　　惟州

[illegible]

山水の[illegible]

山焼[illegible]

杉[illegible]

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

下萌[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕨ハ山より来る人ハ来きりの下枝をへて歩りけり　大梅
山吹咲て蕨のこゝ　山甫
蕨ゆ〻しく長き手のたゝ　長京
蕨ゆ〻しく武山洗ひ採めり　武山
山吹ハ咲ぬ蕨ハいまだ　伯支
蕨ゆ〻しく面もこの山の蕨　蕨峡

伊勢寺納

春深き苔ハ和光の蕨ゆ〻　仲亡
浪出て岡ゆ蕨ゆ〻しく

春深き苔の年ゆ長きゆ〻　雪坡
ゆ〻しく仮ゆ長きゆ〻　陵〻
石魚や法華の蕨ゆ〻　東作

蕨花

陶苔

雨魚

水の芽

水の芽の方ゆ美しき命〻　士朔
長き芽ゆ人ゆ面魚芽ゆ　陳雲
面魚芽ゆ芽ゆ日数や水ゆ　雨楚
岩苔ゆ長ゆ芽ゆ流や流の水ゆ　梅象
岩苔ゆ刈ゆ迷ゆ水の芽ゆ　凡帆

雑氷のゆ

行ゆ芽ゆ芽ゆ凡ゆ水芽ゆ　保命
ゆき芽ゆ芽の水の芽ゆ昌ゆ　石雄
蕨出の蕨ゆ芽ゆ出る水の芽ゆ　霞石
洞代屋の芽ゆ芽ゆ芽ゆ水の芽　富三
芽ゆ芽ゆ芽ゆ芽の芽ゆ　樓雨
芽柳ゆ眺ゆ芽ゆ程の月芽ゆ　去翠

梅

芽柳の葉色を照る雪うれ　護物
芽梅を芽吹く時はいとやさし　以光
ふるさとの梅の香　貞室
梅咲やあの上の森の茶碗　宗因
こ味噌も小鳥もつれて梅の香　素山
ちるあれハ忘れて梅の盛　李由
梅とうぐいす書ある梅の盛　野坡
梅のさかりあれて梅のちれ　惟然
ちるさくらを売里の梅の花　許六

芽の百ケ日よ

四沙弥数きのうや梅の香　北枝
四文梅のみくの老僧茶の面　守古

春

梅の梅祈乞出る人を見る　出掌
四家　仝
梅ちりて茶の豆苗若く緑なり　三千丸
ふるさとの梅の香　金令
里の梅世は正月ばかりの華　広坊
世を経て家吹き梅の香　猪言
雲八雲梅ふるの梅の香　尊信
ふるさとの梅の香　井壽
水筋のふるるは和や梅の香　信方
梅咲やあるるふるるふる　上毛
梅さくや御寺の鐘の小屋雲　江戸　蕪俳
ひらく矢を呼春の梅の香　秩父　石狗

白梅　白梅や本名古梅斜紙人　彦川
　　反梅うぐひす梅ぐ　元治
紅梅　紅梅の時代蒔絵の文箱　書翠
　　紅梅や生き寄せ植木　地文
　　合せて寄せうち松葉とも　曲翠
精　　梅の木の名はつ伸精の柳　三千麦
　　梅は咲る鳥は囀る　白弱
　　梅の花の枝の梅の柳　関柴
　　手折りしかの人の梅の柳　孤田
　　正梅遠のくよ春の梅　柳川
　　梅を見る春人
白梅　庭前に白く咲く梅の柳　鬼愛

赤梅　咲つの梅の自ら咲しを赤梅　伯夫
　　色付き赤しく咲の赤梅　文考
　　赤梅叢のよりよ咲のよう　出翠
　　赤梅の枝のふくらむ赤梅　井梅
　　赤つまき風もまだ咲の梅　松達
　　中垣の梅の咲の梅　宗因
　　梅の白い出て梅の梅　方麿
　　梅の屋の外て赤梅　雪坡
　　門に咲て梅の柳の梅　李白
　　正月の梅は宮の梅　書翠
　　春の和は仕舞の梅　完来
　　山の手の春の梅　春道

柳積て京師なる御ふ庫うれ　荔古
人のみなとのさかえにあるを柳の名　烏頂
柳よりこそさき本の柳き嫌あれ　蓋江
万古の春のうしろ迄くゝ迄く柳うれ信也　井左
又猫もの法ゆて柳の自新所　飯爺
新のみてゝ日もとへる柳の柳うれ　金合
そうゆるうま言肉のさ法柳ふ上紙　敷山
本の新まうみのかされる柳うれ　惟子
青柳も芽生る中結芽の年　蓋村
青柳は春て芽ふく蓋年ふ上　蒙古
青柳は泊り幾のこゝひこゝ　桂素
青柳と人の春て吹ふ上ふれ　雀雙

柳の花

礫蕊のしてゝ春の三毛　柳の毛信也　黄山
うけあうゝ新茶目知ゝ　柳の毛之　卦窓
暗を雨結ふゝ柳の毛　季蓋
蕊毛肉のゝ帰けゝ結ゝ来　去来

芭蕉庵を訪ひて

黄毛十ゝ色ゝ如柳　橋　其角
蕊に新日さ法ゝ井橋子　浪化
蕊毛井の柳蕊毛踏蕊　蕊号
蕊ゝ俳句ゝ法ゝ乃浦　和七
蕊ゝ蕊ゝ垂ゝ毋後越　許六
初春しゝ蕊ゝ春ゝ白の下　几董
黄毛の春ゝ春ゝ思院　相柳

常夏の花八重咲と四つ　森　見外
芳子の人のくらやみ山向　雪迦
川上の柳の芽の百ちとり　其角
黄色なる仏の百ちとり　古道
遊ぶ子の百ちとり　呼俳
仏の水に浮く里や百ちとり　子亦
春の方は猫の恋の行る方　素山
こうれ死く例も哀き猫の恋　史邦
よき物を知ひ中の山さと　乙由
砂山を踏てみて猫の落つれ　附生
上井戸の猫の恋　佐保姫

佐保姫の恋　乙二

佐保姫の恋　常松
春の日枝八重の山ゆ山ゆ　言水
里うぐひす　雄水
雄山雲も雲の　長翠
春雨や汗衣に沙る山ゆ山ゆ　栄水
雲の羽衣の上に春の雨　子素
裏山も春の雨　柳味
柳ちる世に春の雨　仏兄
ほのぼのと春の雨　嫁
春の雨山ゆ山ゆ　蕉雄
春の雨　蕉雄
春の雨　上毛　歳秋
彼れ雉も春の雨　子英

陽生

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏性寺　廿六日の前の夢　素堂
四月七日　秋風
[illegible]　長翠
[illegible]　三千歳
二月七日　西月
如月七日　[illegible]
如月中ごろ　[illegible]
[illegible]　小揚
如月七日　[illegible]
清瀧寺　上毛山居
[illegible]　[illegible]
[illegible]　雉雀
[illegible]　子年

二日灸

初年　初年七日　[illegible]
初年七日　[illegible]
初年七日　[illegible]
初年七日　[illegible]
彼岸　[illegible]
初中変の桜　[illegible]
[illegible]　上サ
[illegible]
涅槃会　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

西行忌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出舟のはてしなき春の海　去来
春風や牡丹畑の土の色　杉風
牡丹に咲物うしなる春風　斗入
春風や庵の前の蓮の葉　蓮翁
春雨の雲のうつる水の面　同
咲ちるや水の底なる春の雨　倉翠
春雨や猫の目のごとくなる　成心
鶯の鳴やこの山の春の風　蓼乙
鶯の鳴て夜の明ぬる春の風　仁左
春の山高く見て渡る鶴の声　山升
春の山高く見て旅の人　去来
春の山高く見て山の人　仁左
春の山　小猿
牡丹咲のはなれて山の春　仙山

春の山
春木
初花
初猫

高うれしうしるなる春の山　雅彩
春の山のかくれなき水うれし　寄洞
春の山生の波は春の波　蕉宇
春の山かくれなき初花　雅彩
初花や立春をうれしがる　支魯
初花や立春をうれしがる　行脚ノ古
春の猫立ちもなれぬ猫　子郎
春の猫のうつるあとの春の猫　士湖
春の猫日のあたる春の猫　仁左　禾菜
初猫やうつるの猫の猫　う甚
ちるあとの春の猫　夢窓

本に行なはれる初櫻　雪齋　九反
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
長崎　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
畑打　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
苗代　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]
苗代や[illegible]水[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]苗代[illegible]水の[illegible]　[illegible]
[illegible]代の[illegible]の[illegible]苗代　[illegible]
[illegible]先[illegible]苗代[illegible]　[illegible]
種蒔
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]出[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
菊根分
[illegible]　[illegible]　[illegible]
菊[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
蓋
[illegible]　[illegible]　[illegible]

右知
世水
古聚
季屋
以兄
家因
秀文
三子長
成英
の雅
三子長
乙二

仙の蓬もつるぬよ出る法華しる
蛇線の出る法華もきこえかれ
出こえ水世跡の屋る蓬の蛾
年いうる蛇人こゆこえ華
古仙の蓬の日仙ゆもきこえれ
蓬の出法一本蛾一蛾の蛾
出こえ出る出の蛾こる蓬屋うれ
蓬の出法こえこえる蓬屋
蓬の出法こえ山家うれ
蓬の出法こえ戻る蛾の蛾
蓬の蓬や蓬の蛾の蛾の蓬
たん出や一見こゆる出る蓬

蓬の蓬

蓬の蓬

蓬の蓬や出の蛾の蛾法華
たん出や出の蛾
蛾人こえ百姓法の屋
蛾の蛾蓬こえ屋屋の蛾
蛾の蛾蓬こえ屋屋の蛾
こえ蛾こ蛾の蛾蛾
こえ蛾こ蛾の蛾蛾
世屋こ蛾の蛾法蛾
出屋法屋蛾こ屋屋
蛾

伊勢こえ
百八の屋法こえ
伸る法蛾こえ屋蛾こる
和歌こえ新蛾こえ

蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾
蛾の蛾

春雁

春日

春日

春

二十四

生きの日

生きの日や春の日の淡き生きの
生きの日や春初めて春の雨 富山 素堂
生きの日や春の初めの雨 百要
生きの日や春の初めの雨 秋夫
春の秋 春の秋の初時の雨 曙覧
春の秋の星 春の星 春の宵 春の宵 春の宵

出代の髪の結ひ人　水導
出代や張籠の菓を斤ん　土朝
出代のもとのひうそや　東地
籠のやちまき菓を打ちて　土朝
籠のやつい寄るも人寄ひ　西后
菓の雲　旅籠屋の小女桃　暦衛
菓の雲　仮寝の夜さ寒の小　西后
菓の雲　ひつそりと寒の小　俳雪
菓の雲　ひのそりと寒の別　俳雪
菓の雲　麦の穂に寒さ降や寒の雲　江戸　蕉雨
菓の雲　そそろの雲雲の少は長さまりけり　風高
乞人

春

春雨　秋さくら日数ふる雨　江戸　乞樹
春雨　春雨や降るや春の雨　鬼貫
春雨　小蓑尾に雨を伸べて　丈芝
春雨　春雨にぬれる梅の蕾ひ孔　古翠
春雨　小日のうち春雨しのぐる蕾の孔　白城
春雨　降るうち蕾ひ蕾ひ春の雨　霞井
春雨　中さて殿一般の春の雨　長山
春水　芋ひさやうる傳蕾ひ春の雨　仕立一
春水　破蓮の根を後よりうる水　重厚
春水　ものかくひ出ひよりよる春の水　大江丸
春の水　沙鉢ひ俗ひ　升山

[illegible]の城しさ後の国や妻の水上毛　出文
妻の水面の雪は陸奥の　雄鹿
年経る雪は春も来ぬ　手敷
[illegible]の春は来ぬ　菅三
[illegible]春の海　長賀
[illegible]春や松の下を行く移　呼俳

唐町より[illegible]時

[illegible]　去来
[illegible]八幡　[illegible]
一面の海[illegible]なり　惟子
[illegible]　[illegible]
我[illegible]　[illegible]　[illegible]

妹　　妹

妹灯の[illegible]の[illegible]時　升山
[illegible]の[illegible]
[illegible]の行く[illegible]　此枝
[illegible]妹の[illegible]　有節
[illegible]妹や[illegible]坂三里[illegible]　如白
妹[illegible]　雅[illegible]
[illegible]　文[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　一[illegible]
[illegible]　西[illegible]
[illegible]　[illegible]水
[illegible]　士朗

四環　　春

[illegible]
[illegible]
[illegible]

蛤　二子麦　桂素

蛤　乙子麦　東地

蜆　呼称　西遊

雄子　言水　去来

蛤や信つまるかぬ人多年　東地

蛤を以そしる恨船　呼称

市もまく人生れぬる恨船　西遊

潮汐を水に入れ恨　言水

呼称も麦畑の恨麦　去来

麦しや蒙むむ南八多き雄子の

雄子の孫子や雄子の孫　小魚

雄子帰や晩日社角八吟出る　菜節

雲雀　雲雀の声の高きこそ聞れ　雲水

義仲の内八日義仲帰雲雀　見外

紅葉の恨八重八重雲雀　也琴

義仲の義八重雲雀　一光

帰子の雲の高き雲雀　史邦

帰子の雲や雄泳の盤根石　士朗

麦の戸や雄て麦の人を帰子の　呼称

くくのそれ人生の世も帰子の　雄岩

雲の雲の江や雲くくの雲も帰子の　之素峻

雲の雲を伏て雲の雲の雲雲　菊岩

雲雲や秋くの雲くく帰雲雲　雄岩

伊勢く往くく人の雲雲の麦　菊岩

紅葉の俳句の雲雲の俳句

土豪で物買人田舎小商人

我宿八仙の茶屋茶屋主

新たそうで牛で挽き茶屋小雇

人を使ひ人を雇れて雇方子

雇子婦女貴ひし雑の糧

子を帰う雇の物の有るかる

雇子の物取りけるを三五

餅を舞を新たを鳥を雇の子

孫をもの番屋しをる和歌

番所番所の方も有を魚

二位の中を書り素子が戦

書の者を下者の番屋の孔

雑穀　一茶　乞本　鬼貫　魏市　乙二　西鶴　雑穀　貴南　千恵　呉泊　阿為

蚕

花

善提山まて

数出る寄合の法花仏と多れ　守武

女八仙色と出る世と多　宗因

出咲て死ものも花の時の花　東山

出咲て死ものも花の時の花　維舟

出咲て死ものも花の時の花　去来

死とする夢ものもの花の屋の出

白雲の庵まて

清ものの庵と造て出の庵の孔　北枝

塔八出蕎八塔ものの蕎屋　乙

峰峨蕎の峰の蕎の蕎　蕎号

高地山まて

ものの出たものの孔の蕎の虎　杜国

[illegible]

[illegible]

大峰中より[illegible]奥[illegible]むの果　芳良

春来奏伴閑遊吟

[illegible]の[illegible]隣の[illegible]　碧水

[illegible]軒の[illegible]　孫頑

[illegible]　太雅堂

[illegible]山　祇徳

[illegible]

[illegible]　柳居

[illegible]　仝

[illegible]山　奏吉

[illegible]　白雄

[illegible]山　仝

[illegible]　長翠

[illegible]　仝

[illegible]山　三千麦

[illegible]　蔔之
[illegible]　子東
[illegible]　小魚
[illegible]　伊勢物語
[illegible]　吹琴
[illegible]　守義
[illegible]　曲江
[illegible]　三章
[illegible]　子邦
[illegible]　孫功
[illegible]　蜀山

花の雲

[illegible]　雪坡
[illegible]　邦七
[illegible]　西自
[illegible]　歩文
[illegible]　雪蕉
[illegible]　汗六
[illegible]　精鑑
[illegible]　子徽

春

花の雪

[illegible]　素堂

[illegible]

[illegible]　雪坡
[illegible]　邦七
[illegible]　西自
[illegible]　歩文
[illegible]　雪蕉
[illegible]　汗六
[illegible]　精鑑
[illegible]　子徽

苔見

櫻

[illegible] 木芝

苔見墨[illegible]の枝の[illegible]　江戸　佛郎

[illegible]　雲坡

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　上井　三嬉

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　辻龍

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　野坡

[illegible]　西月

[illegible]　[illegible]

[illegible]　漫々

[illegible]　中高

[illegible]　一汀

[illegible]　二丘

[illegible]　江戸　井雪

[illegible]　上ノ子　[illegible]園

[illegible]　惟中

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]堂

[illegible]　木芝

山櫻

梅

[illegible]山

[illegible]山さくら　[illegible]富
[illegible]上を[illegible]梅の色　源蓋
[illegible]下[illegible]此[illegible]出る梅の色　梅薛
[illegible]梅や[illegible]下も[illegible]流れ水の色　伯徳
[illegible]雅の業は漫[illegible]梅や梅の色　内空
[illegible]自の光や[illegible]梅[illegible]色　甘南
[illegible]梅や[illegible]舞時の袖の梅

七里の[illegible]

牛の背に[illegible]梅　[illegible]雅
江の面の梅[illegible]江の末　乙二
[illegible]の色自然は梅と[illegible]れ　七夕千蓋義
一里[illegible]梅の蕊　紛物　信[illegible]

梨の花

[illegible]富や梅は[illegible]宵の月　呼[illegible]
[illegible]梨の花　[illegible]
梨[illegible]や梅も[illegible]梨の色　[illegible]
[illegible]梨の[illegible]　乙[illegible]
[illegible]梨の花の[illegible]　テハ　[illegible]月
[illegible]梨の色　[illegible]秋
海棠

[illegible]海棠の色は海[illegible]梅の月　[illegible]
[illegible]海棠や[illegible]の散　[illegible]
[illegible]海棠や梅[illegible]　紛物　[illegible]
[illegible]梅[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]角　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

山吹

山吹の底ハ水の底
[illegible]

山吹の歌ハ[illegible]

山吹の[illegible]

山吹の[illegible]

[illegible]

[illegible]

撒てを人の袖に遥　櫻　江戸　華雄

散まがふ雪の遠き花の雪　古素

初雪の降もしてそ嬉しき　俳諧　梅芝

時雨てそ伸さは御屋敷迄　仝　蓬國

美の翁　梅の花　雀屋　梅の花　出芳

春の香

春の香の人は浮世を忘れ　長翠

春雨を聞て思ふ人の袖　士朝

春雨を聞てもの思ふ人の袖　呼俗

二番目の春は人の袖に　狂六

赤猫の鳴くなり春の夕暮　山店

春の雪　春の雪は降るとて水も春なるか　秋又　休和

行春

春水の海を過ぬ

行春の山の人の袖の雪　雄賀

行春や山の人の袖の雪　狂六

行春や千種の物の花　李由

行春は花のよし世のよし　侯之

行春は　麦の穂の穂の穂　春雄

行春や　春の雨　春の雨　白人

行春の雨　春の雨　春の雨　芳光

行春や　春の雨　春の雨　民賀

行春や　春の雨　春の雨　也蓼

行春や　細け　の　袖　春雨　緑田

行春や　稀　を　笑ゆる　かな　中夜

混歌

為度の〳〵岩の〳〵蘇の志　文芳
物の〳〵う傳さ〜て〜見る蘇の谷　石雄
畑打ハ多よ人多し　梅枝志　月岳
六瀧川〳〵〳〵志よ〳〵〳〵
門出れば左右よりぬ月と梅　多年
末毎年〳〵〳〵〳〵〳〵雪の花　玉云
見るものの松ハ色なるなり　江戸市川
梅生ゆ〳〵しの傳雪の表　阪山
子ハ〳〵〳〵拾〳〵さのめ〳〵ハ重梅、　文山
雪雲よ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵梅の志　土佐狸生
行〳〵〳〵梅ハ散〳〵〳〵〳〵〳〵　江戸鬼氏

仲の節句〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵蝶井　武州　志一
梅ハ〳〵の梅〳〵〳〵〳〵〳〵吉野山　江戸　孤村
月新〳〵風〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵梅の数　舎友
春の〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

[illegible] 山（サヌキ） 義雅
[illegible] 大坂 林曹
[illegible] 嘉義重改 小[illegible]
[illegible] 三河殿 [illegible]
[illegible] 小城 秋帆
[illegible] 西疇
[illegible] 江戸 玄我

[illegible] 岐山
[illegible] 雄岳
[illegible] 山
[illegible] 岳
[illegible] 山
[illegible] 岳
[illegible] 山
[illegible] 岳
[illegible] 山
[illegible] 岳
[illegible] 山
[illegible] 岳
[illegible] 山
[illegible] 岳

月の暈とゝやゝ雪降近き事を
霜を植其八結枝ゆのしき
立春八日子丑の時ゆゝしき雪の降
日出て流うこゝ人中繁き事
寒氣ゆるかやゝ和らぎ春の
雪も綿を繰る蜘蛛の糸
雪に餅を繋ひ春の来
庭に立義す紺の色春
ゝうの変を姫を寒氣
庭の樹梢を繁る霞
日の光を覩ゝ春
独利の猪の子ける呪

山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山

人を智恵のゝ
学問を下結も
終世の位を
基の白しの
奥筋ゝ
学歩の
祖牧を直
姫の本
牧を結
咲庭を
中の風
仲を巌を

炭
山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山
炭
山

陣中より時々新古を問ひ
稲荷の社の前を過ぎ
稲穂は稔りて
毎のごとく上る人もなくて
文角は以ての外
鶴ゆれて
古貴の方は特殊を養きに
月々来たる居連
笠高は
白元帝は二月に帰
殺の法を神に納る新解き
世ごとく鶴の白ひ若きを

雅家
樺田
岩武
家
田
武
家
田
武
家
田

殺掛はそこ世角なる家住居
以つも勢ごとに初居の春
若古しこと濃の絵のごとく
嘶きたりて
古の新大工は春に
風のごとき
強市は備を
内の新合は
内御の酒を
町屋は
崩れたる
こころの若き

家
田
武
家
田
武
家
田
武
家
田
武

時雨に古く結ぶる人の庵　岩田
雨もそそぐ水の音　井戸端
掛鉢にそそぐ雨の音　岩田
秋の麻は今年は秋の上作　岩田
雲一つうれぬ時雨の山の月　岩田
かくしの角力の出番のとゝのひ　岩田
市場の出あるは出るとゝのひ　岩田
おのつからとゝのひ　岩田
二つ三つ出る桃燈に初蛍　岩田
宮さま移りまします御の末　岩田
初出の蟹に時の雨のとゝまり　岩田
新米にかつて植る稲の末　岩田

氷のとけ岩の隙屋の清水哉　碓氷
時雨にとゝまる屋敷の咲　峯
岩の中は奥大石は見えず　荘
相撲の場の行きもとゝまり　岩
蕎麦に合ふ豆腐の豆に角の宵　荘
下駄つゝ屋の一輝は茅　岩
以つゝは異の鈴の音の高　荘
雷て鉦のねゝ多賦を干　岩
うゝまくとゝ中の逸生出　岩
云ひ中一番の翌の別路　荘
山茶花のちらく散出　岩
ちらくゝ白の月　荘

市初穂ゝ川勢ゆ出る面賀の孔　嵩
雪ゆ掃除仕屆く小雪哉　莊
雨雲を分て大佛に吹まゝし　嵩
雲の休は亦小夢情　莊
行の雲を清の山て行雲の雲　嵩
ふゝ吹て平地の芋部の出る　莊
蔓形の餅を作くて作くて　立
名を附て雲る雲形ひ　嵩
線組も見者ゝ中は切るまた　莊
湯治ゝ吹つて物系里る　嵩
市地内ゝ小雨雜を貰ハ来ゝ　莊
淀の海ゝ徒歩新る　嵩

庭丁の音も深しき生薬瓜　莊
酒を屋ゝて後を乎侵　嵩
ゆ結屋形の枝ゆ遠入る仕蔵屋　莊
菜の節句ゝの近寄て来る　嵩
川筋八月ゆ朱ゝる青柿　莊
市茶一ツ年ゝ寄る新綿　嵩
垂変形て最る蔵内縫　莊
竹ゝの根振ゝる日中の種　嵩
安濃の廣ゝ物を立所ゝ孔　莊
玉ゝ堂を吹くゝて松く　嵩
花七日ゝ出ゝ出ゝ出ゝ　莊
ゆ乎ゝ吹ゝ吹ゝ吹ゝ　嵩

[illegible]　孫家
[illegible]　子東
[illegible]　事業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業
[illegible]　家
[illegible]　東
[illegible]　業

[illegible]　家本
[illegible]　菓
[illegible]　家
[illegible]　本
[illegible]　菓
[illegible]　家
[illegible]　本
[illegible]　菓
[illegible]　家
[illegible]　本
[illegible]　菓

[illegible]　雄家
[illegible]　秋香
[illegible]　惟州
[illegible]　家
[illegible]　香
[illegible]　州
[illegible]　家
[illegible]　香
[illegible]　州
[illegible]　家
[illegible]　香
[illegible]　州

[illegible]先　岩香
[illegible]の[illegible]方[illegible]
春の屋の物[illegible]中屋の[illegible]
[illegible]の[illegible]の雲[illegible]　岩香
[illegible]の中の一[illegible]　香
[illegible]の[illegible]の[illegible]　岩香
[illegible]の[illegible]　香
[illegible]の[illegible]　岩香
[illegible]の[illegible]　香
水[illegible]　岩香
市[illegible]　香
[illegible]海　岩香
[illegible]　香
[illegible]の[illegible]　岩香

[illegible]料理番　岩香
[illegible]　香
[illegible]の[illegible]　岩香
[illegible]　香
[illegible]の[illegible]　岩香
[illegible]の

[illegible]　陰岐
[illegible]　九山岐
[illegible]　紀田
[illegible]　岐
[illegible]　岐
[illegible]　田
[illegible]　岐
[illegible]　田
[illegible]　岐
[illegible]　岐
[illegible]　田

[illegible]　岐
[illegible]　田
[illegible]　岐
[illegible]　田
[illegible]　岐
[illegible]　岐
[illegible]　岐
[illegible]　田

女房の孫ゑもんの子仮作左　岩岐
苦以業をこのむ癖あり　田
離別ゝ命じ鍬作り稽古て　岩
奚屋の方多以請状　岐
方角を按て稽古刈　田分
沈作のこゝせの家よりぬ　岩
るの農掃家せて金四分家の　岐
変をこのこゝ高賀を　田
略せよ拝千こゝ一日孫よりこゝ　岩
やこゝ孫より為る事の妻　岐
弁南の業八蔵千　田
出家より義こゝ伊達方家より

挑灯